

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2023年4月7日

事業ID:2022008934

事業名:若年層が献血・骨髄バンクドナー登録の正しい知識を持ち、自ら行動し具現化出来る仕組みの構築

団体名:一般社団法人SNOWBANK

代表者名:荒井 善正

TEL:080-5410-4879

事業完了日:2023年3月31日



事業費総額	: 21,921,833円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	: 9,581,833円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	: 12,340,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	: 0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. THE BANKの開催
 (1)時期:2022年5月
 (2)場所:豊洲PIT
 (3)内容:献血を働きかける音楽イベント
 参加者数:1,000人 献血:300人

2.「献血“インカレ”全国大会」の開催
 (1)時期:2022年4月~12月
 (2)場所:全国の大学100校
 (3)内容:献血サークル対抗の献血、骨髄ドナー登録者数で競う全国大会
 開会式:5月 オンラインによる開会式



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. THE BANKの開催
 (1)時期:2022年5月
 (2)場所:仙台PIT
 (3)内容:献血を働きかける音楽イベント
 参加者数:300人 献血:受付78人実施48人 骨髄ドナー登録:30人

2.「献血“インカレ”全国大会」の開催
 年度中に下記に事業変更し実施

2.「THE BANK 2023の開催」
 (1)時期:2023年3月18日
 (2)場所:GORILLA HALL OSAKA
 (3)内容:献血を働きかける音楽イベント

(3)成功したこととその要因

来場者の10%以上の方が献血・骨髄バンクドナー登録していただいたこと。献血実施者の内、22%の人が新規献血者であったこと。

(4)失敗したこととその要因

「献血“インカレ”全国大会」の開催が新型コロナウイルス感染症第7波の影響により開催が困難になった為。

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

3. SNOWBANK献血プロジェクト
(1)時期: 2022年4月～3月
(2)場所: 全国の献血ルーム
(3)内容: 音楽アーティストやアスリートと連携し様々な業界のファンから継続的な献血者獲得する



(2)事業内容の実施(完了)状況

3. SNOWBANK献血プロジェクト
(1)時期: 2022年4月～2023年3月
(2)場所: 全国の献血ルーム
(3)内容: 音楽アーティストの協力のもとノベルティーステッカーを作成し4弾に分けて実施
献血実績
第1弾 779名
第2弾 847名
第3弾 805名
第4弾 855名
合計 3,306名

(3)成功したこととその要因

3,306名というかなりの献血者を獲得出来た。SNOWBANK献血プロジェクトの認知が深まり始め継続的に献血してもらえる様になった。

(4)失敗したこととその要因

スポンサー獲得があまり出来なかった

(5)事業内容詳細

(1)時期: 2022年4月～2023年3月
(2)場所: 全国の献血ルーム
(3)内容: 音楽アーティストの協力のもとノベルティーステッカーを作成し4弾に分けて実施
献血実績

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

4. かたりべプロジェクト
(1)時期: 2022年4月～3月
(2)場所: 全国の学校・企業
(3)内容: 全国の学校・企業で体験談を講演し、献血・骨髄ドナー登録の必要性を伝えます。



(2)事業内容の実施(完了)状況

4. かたりべプロジェクト
(1)時期: 2022年4月～3月
(2)場所: 全国の学校・企業
(3)内容: 全国の学校・企業で体験談を講演し、献血・骨髄ドナー登録の必要性を伝えた。

(3)成功したこととその要因

全国7か所で講演 約1830名に献血・骨髄バンクドナー登録の必要性を伝えられた。

(4)失敗したこととその要因

新型コロナウイルス感染症第7波の影響もあり思いの外実施回数が伸びなかった。

(5)事業内容詳細

全国7か所で講演 約1830名に献血・骨髄バンクドナー登録の必要性を伝える。

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2022
 (1)時期:2022年11月12日～13日
 (2)場所:代々木公園
 (3)内容:献血の必要性を伝えるトーク、雪広場遊び、音楽ライブ、献血バスによる献血併行型骨髄ドナー登録会を開催
 6. 骨髄バンク登録説明員養成
 (1)時期:2022年4月～3月
 (2)場所:学生献血サークル
 (3)内容:各地の献血サークル参加者に向けたオンライン講習で骨髄バンク登録説明員を養成します



(2)事業内容の実施(完了)状況

5. 東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2022
 (1)時期:2022年11月12日～13日
 (2)場所:代々木公園
 (3)内容:献血の必要性を伝えるトーク、雪広場遊び、音楽ライブ、献血バスによる献血併行型骨髄ドナー登録会を開催
 6. 骨髄バンク登録説明員養成
 (1)時期:2022年4月～3月
 (2)場所:学生献血サークル
 (3)内容:オンラインでの説明員の説明会の実施と東京雪祭会場で大学献血サークルとともに普及啓発活動を実施

(3)成功したこととその要因

献血に関しては予約システム導入するなどし過去最多数獲得できた。

(4)失敗したこととその要因

骨髄ドナー登録目標数に達しなかった。リピーターが増え始めて既登録者の参加が増えてきたので新規来場者の獲得が必要になってきた。

(5)事業内容詳細

献血受付567名実施471名骨髄ドナー登録102名を獲得できた。詳細は添付報告書を参照。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

1. THE BANKの開催
 (1)時期:2022年5月
 (2)場所:豊洲PIT
 (3)内容:献血を働きかける音楽イベント
 参加者数:1,000人 献血:300人
 2. 「献血“インカレ”全国大会」の開催
 (1)時期:2022年4月～12月
 (2)場所:全国の大学100校
 (3)内容:献血サークル対抗の献血、骨髄ドナー登録者数で競う全国大会
 開会式:5月 オンラインによる開会式
 研修会:骨髄バンク登録説明員資格取得 6月、8月、10月に開催
 交流会:7月、9月にオンライン交流会を実施。同じ志を持つ全国の仲間と出会う場

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	491	文字数チェック	OK
1. THE BANKの開催 (1)時期:2022年5月 (2)場所:仙台PIT 参加者数:300人 献血:受付78人実施48人 骨髄ドナー登録:30人 2. 「献血“インカレ”全国大会」の開催 年度中に下記に事業内容を変更し実施 「THE BANK 2023の開催」 (1)時期:2023年3月18日 (2)場所:GORILLA HALL OSAKA (3)内容:献血を働きかける音楽イベント 参加者数:400人、献血数:受付81人実施63人骨髄ドナー登録数:31人			

3.事業実施によって得られた成果

東京雪祭では専門学校2校に授業として運営に関わってもらったことにより10代の生徒さん達に必要性を感じてもらえた。献血実施も過去最多数獲得出来た。SNOWBANK献血プロジェクトは徐々に定着して来ており期間中以外にも献血実施していただける方が増えた。新たにTHE BANKを立ち上げたことにより新規献血・骨髄バンクドナー登録者を獲得する機会が増やせたので今後もこの事業を伸ばして行き音楽業界での認知も広げ新規獲得を目指したい。徐々にSNOWBANKの活動に参加してもらえる学校も増えて来ており参加した学生達が卒業後もSNOWBANKの活動に関わり自主的に意見し行動し始めてくれました。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARDではリピーターが増えて来ており献血獲得数が伸びているにもかかわらず骨髄ドナー登録数が思いの外伸びなかった。日本財団HEROsのお力なども借りながら新規来場者の獲得が必要。
THE BANK立ち上げにより新規獲得はできて来たが集客に難があり改善していく必要がある。
SNOWBANK献血プロジェクトは定着しつつあり一定数献血獲得出来ているが継続する為にはスポンサー企業の獲得が必要。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

報告書を作成しホームページや支援者への郵送物などで公開



(2)事業完了時の成果物名称

・東京雪祭22年度報告書

(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

<https://fields.canpan.info/report/detail/28930>

収支計算書

(2022年 4月 1日から 2023年 3月 31日まで)

団体名： 一般社団法人SNOWBANK
 事業名： 若年層が献曲・発願/バンドナー登録の正しい知識を持ち、自ら行動し具現化出来る仕組みの構築

(収入の部)

(単位：円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	未収額 自動計算(A-C)	助成金返還見込額 自動計算(A-B)
①日本財団助成金収入	12,340,000	12,340,000	12,340,000		
②自己負担	12,340,000	9,581,833	9,581,833		
③収入合計	24,680,000	21,921,833	21,921,833	0	

(支出の部)

(単位：円)

費目	日本財団承認済の予算額 (x)	決算額 (y)	支出済額 (z)	未払額 自動計算(y-z)	補足説明、備考
臨時雇用費	300,000	310,000	310,000		
諸謝金費	4,000,000	2,772,656	1,987,656	785,000	
旅費交通費	720,000	1,582,375	1,582,375		
製作費	2,110,000	777,086	777,086		
委託費	7,210,000	7,649,416	7,199,416	450,000	
会場費	3,348,200	2,407,793	1,957,793	450,000	
消耗什器備品費	520,000	369,680	369,680		
広告宣伝費	600,000	600,000	600,000		
通信運搬費	38,400	82,861	82,861		
雑費	790,000	329,966	329,966		
間接経費	5,040,000	5,040,000	5,040,000		
支出合計(端数調整前)	24,676,600				
端数調整欄	-3,400				
④支出合計(端数調整後)	24,680,000	21,921,833	20,236,833	1,685,000	

※助成金・負担金額の確定は監査終了後、当財団よりご連絡いたします。

※予算額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じます。